

民俗資料館だより

加茂市民俗資料館
館報 第18号

平成23年3月31日発行

編集・発行

加茂市民俗資料館

March 31st, 2011

KAMO CITY MUSEUM OF HISTORY NEWS No.18

加茂市の文化財

新たに指定された2点の文化財紹介

加茂市の文化財は、19年度に民俗資料館だよりで紹介の後、次の2点に新しい指定がありましたので紹介いたします。

1 電気機関車 ED1

全長9.18m、重量25トン。凸型をし、アメリカの製造会社ウェesting・ハウス社の形式を踏襲したことから、当時「ボールドウィン・ウェestingタイプ」といわれていました。中小私鉄の標準型でもあり、モーターは56.4KWを4基持ち、旅客用電車の倍の力がありました。国鉄では蒲原鉄道と接続する五泉・加茂両駅とも貨物の取り扱いをしていましたので、ED1は七谷や東加茂駅からの貨物の出荷に活躍しました。

しかし、昭和40年頃から、国鉄・蒲原鉄道とも貨物の取扱いは次第に減少し、昭和56年には五泉駅、57年には加茂駅が貨物の取り扱いを停止しました。そのため、電気機関車は、社内の工事用や冬季の除雪用の仕事以外用途がなくなり、村松駅に待機したままになっていることが増え、平成11年の蒲原鉄道廃止とともに廃車されました。

その後、平成21年に蒲原鉄道より加茂市に譲渡され、平成22年に市の文化財として指定を受けました。(加茂市史編集委員 瀬古龍雄氏による)



2連旅客車を連結して走るED1の雄姿



除雪時のED1

2 上土倉十二神社本殿の雲蝶彫刻

上土倉十二神社は、元禄2年(1689)の村松藩寺社改帳に「十二権現」と記されていますが、開基は「年数不知」で、寛延3年(1750)の開帳では、「上土倉村持」とあり、古くから集落の鎮守でありました。

(『加茂市史』資料編1)

雲蝶彫刻のある本殿は、間口6尺、奥行5.1尺、総ケヤキの1間社^{やしらがれづくり}流造、柿葺きで切り石を敷いた上に建立され、瓦葺きの覆屋^{おおいや}に納まり良い保存状態です。建立は、残存する棟札^{むなふだ}から安政4年(1857)9月22日で、大工棟梁は加茂町の宇太吉と判ります。明治5年(1872)の住宅図には、現在の松坂町の街道に沿って、塩野谷宇多吉とあり、ここに住んでいたものと思われます。

平成9年に加茂市教育委員会が木原尚氏に鑑定を依頼した結果、本殿向拝にある水引虹梁^{りょう}の中備^{なかぞなえ}の龍、左右の向拝柱上部にある木鼻の象と獅子各一對、及び本殿左右の脇障子にある「許由洗耳図」^{すずぐみず}「巢父と牛図」^{そうほ ぎゅうず}計7点が石川雲蝶の作品と確認されました。

石川雲蝶は、文化11年(1814)に江戸雑司が谷(豊島区)に生まれ、通称を安兵

衛^{いみな}といい諱を正照、雲蝶と号しました。江戸彫刻石川流の技術を習得したことから、石川姓を名乗ったといえます。

天保年間（1830～1844）に三条に移り住み、明治16年（1883）70歳で亡くなるまで、中越地方各地に多くの作品を残しました。昭和48年に魚沼市大浦にある西福寺開山堂の彫刻が県指定文化財になった他、加茂市近在では、三条市の本成寺、石動神社等に作品が残されています。

（加茂市文化財調査審議委員 長谷川昭一氏）



向背にある竜の彫刻



木鼻の象と獅子の彫刻



「唐人と牛」の彫刻

加茂市の遺跡

平成22年遺跡発掘調査について

加茂市教育委員会社会教育課係長

伊藤 秀和

本年の遺跡調査は、開発事業に関連し、確認調査が3遺跡、試掘調査が1地区を対象に行われた。

1 中沢遺跡—弥生～近世—

所在地 加茂市下条地内

調査面積 ①約3.5㎡②約114㎡③約13.3㎡
④6.4㎡

調査期間 ①平成22年10月19日
②10月4日～11月8日
③平成23年2月25日
④3月14日～15日

調査原因 ①宅地造成②・④排水路改良工事
③道路建設工事

調査の概要

中沢遺跡は下条川右岸の沖積地一帯に立地する弥生時代後期～近世までの複合遺跡である。今回の調査では平安時代の土器が出土した。須恵器を含まず、大半が土師器であることから概ね10世紀頃と考えられる。漆が付着した土師器も確認されている。



中沢遺跡位置図



中沢遺跡 確認調査



中沢遺跡 漆付着土器

2 たて屋敷遺跡—中世—

所在地 加茂市下大谷地内

調査面積 約33 m²

調査期間 平成23年1月25日・26日

調査の概要

たて屋敷遺跡は大谷川右岸の台地～平地にかけて立地する。以前の確認調査で中世陶磁器などが出ている。今回は8トレンチの調査を行なったが、遺跡は確認できなかった。



たて屋敷遺跡位置図



たて屋敷遺跡 確認調査



たて屋敷遺跡 確認調査

3 元狭口遺跡—中世—

所在地 加茂市狭口地内

調査面積 約8.2 m²

調査期間 平成22年10月1日

調査原因 道路建設

調査の概要

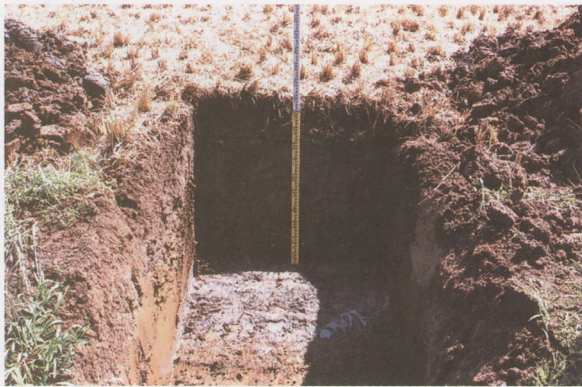
元狭口遺跡は加茂川左岸の丘陵裾部に立地する中世の遺跡と考えられている。今回は3トレンチの調査を行なったが、遺跡の存在は確認できなかった。地形の改変が行なわれた可能性がある。



元狭口遺跡位置図



元狭口遺跡 確認調査



元狭口遺跡 確認調査

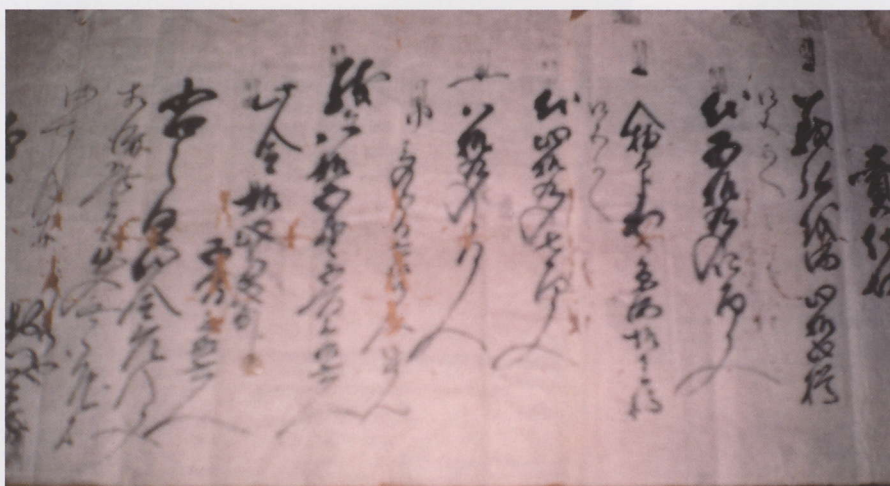
4 後須田地区

所在地	加茂市後須田地内
調査面積	約 8 m ²
調査期間	平成 22 年 7 月 20 日
調査原因	駐車場造成工事

調査の概要

今回の対象地は、周知の遺跡である大手町遺跡に隣接する地点であるため、試掘調査を行なった。1 トレンチの調査を行なったが、青灰色砂層が厚く堆積し、遺跡の存在は確認できなかった。

加茂町振興商人桂屋の商業活動資料



嘉永 3 年 7 月 1 5 日 箱館美濃屋仕切り帳

「^桂印わか糸酒」と読める。

加茂町新興商人桂屋の商業活動

加茂市文化財調査審議会委員

佐藤 賢次

はじめに

田上町原ヶ崎新田の旧庄屋家であった佐藤嘉右衛門家の所蔵文書中に、江戸時代後期に同家から分家し幕末期にかけて加茂で急速に成長した桂屋という商人の活動が窺える資料が見出されたので、ここに紹介してみたい。

桂屋の商業活動

桂屋(佐藤家)の初代は平次郎といい、原ヶ崎新田の庄屋佐藤嘉右衛門の次男として生まれ、加茂町に借家して出て、「京都小間物ならび醤油商売」をしたことに始まる。分家の時期は、兄永七が家督して庄屋となった寛政9年(1797)前後と見られる。髪飾り・化粧品・袋物などの小間物商いは店舗を持たずに振り売り(得意先を廻り歩く行商)が多いが、醤油も商ったことから、最初から店舗を構えていたとみられ、早くも文化・文政期(1894~29)には、加茂・上条・下条・鶴森など地元だけでなく、三条や新津・白根町、水原(阿賀野市)や酒屋(新潟市江南区)、内野(新潟市南区)、曾根(新潟市西蒲区)などにも得意先を持つ新興商人に成長し、醤油・小間物・太物(木綿布地)商いの外、米・大豆などの取引や貸金業にも事業を広げ、天保3年(1832)の「加茂大明神惣社永々御修復金」運用仲間の一人となった。

桂屋は天保4年から俵の十次兵衛の代となる。同6年に三条町の弥蔵を相手取って前年買い付けの三田米300俵(代金100両)のうち102石5斗余が不渡りとなっているという訴訟を起こしているがその買い付け米は、「酒造米入用」とあり、この頃酒造株を入手し、加茂町で「^桂印」の「^{わか}糸」という銘柄の酒造業も営んだことがわかる。

天保8年(1837)、十次兵衛は、北関東の水戸藩家老山野辺兵庫の城下に若糸酒を大量に送り出すという大商いをした。当時、水戸藩では藩主徳川斉昭が海防強化のため領内多賀郡助川村(日立市)に

城堡を築かせ、その工事を山野辺義観に担わせていた。同年4月、山野辺の家臣山岡喜八郎が川口新田（新潟市秋葉区）改観寺に十次兵衛を呼び出し、買穀方の豊田精八郎と近藤平兵衛から、水戸で酒値段が高騰し、「御館様（山野辺）御普請御入用酒」が殊の外不足しているので酒100石を新潟から船廻しで、一駄^{いちだ}2斗入り4樽付きで30駄分（120樽）を陸送で送ってくれるよう頼まれた。遠路で、しかも海上搬送は不慣れと辞退したが、押しての頼みであり、同席した改観寺住職と川口名主田中周吾からの依頼もあって引き受け、船廻し分は9月3日新潟湊から、陸送分は9月22日津川（阿賀町）に出していた倅忠左衛門を付けて山野辺の城下まで送り出した。

ところが、船廻しの分は9月27日に津軽海峡で破船してしまい、陸送分も水戸領に入ると他所酒売りは禁止中と差し止められ、やむなく5駄分を献上酒、残りを山野辺様御用酒として城下の助川まで搬送し、明石屋小左衛門にいったん預け、小左衛門が内々売り捌くということになって11月に忠左衛門は帰国した。

しかし、約束の12月になっても売上代金は送られてこず、翌9年2月再び忠左衛門が城下に出向いたところ、山野辺からの下げ金もなく、小左衛門の売り捌きも種々の口実をあげて取り散らしとなったため、9年6月水戸表に酒一件の滞金訴訟を起こした。この一件がどのように内済したかは不明であるが、不慣れな遠隔地で大藩の武士を相手にした商売は大きなリスクを負うことを痛いほど知った取引となった。

天保末期から桂屋は3代目の忠左衛門の代となるが、弘化2年（1845）6月、忠左衛門は長崎に出向き八百屋町道具屋重兵衛から洗鮫、夷浜町財津屋嘉左衛門から極上硯石や筆、引指町虎屋嘉市から極上更紗など長崎貿易で輸入された高級唐物の仕入れをした。この背景には、加茂でも経済生活の向上で高級品求める人々がでてきたことを示している。

嘉永3年（1850）、忠左衛門は、本家の原ヶ崎新田庄屋嘉右衛門と組んで、蝦夷地や赤間関（下関）など遠隔地との交易にも乗り出した。上方の大坂と蝦夷地を結ぶ西廻り航路を北前船と呼ぶが、北辺警備から蝦夷地が幕府領となってから特に注目が集まり、

蒲原の豪農たちの中からも交易に乗り出す者も出てきた頃である。後須田村の庄屋小林八十八が、天保2年（1831）に江戸蔵前の小林金右衛門と図って、新潟湊から米を積み出して松前で海産物と交易した例

はその早い例であるが、嘉右衛門は諏訪丸という船を購入し、嘉永2年から年3回、新潟と松前・箱館を往来していた。

嘉永3年、諏訪丸は早春に新潟を出、2月1日に松前で石崎弥兵衛店に若糸酒や石清水酒（嘉右衛門蔵）など700樽を売り、2月末に箱館に移り、酒を売る一方で大津屋茂吉店から鰯^{いわし}粕^{しめかす}などを購入（一番船）、5月に長州の赤間関に上がり、茶屋六左衛門らに蝦夷産の昆布や鰯^{いわし}粕^{しめかす}・鯨粕などを売った。5月末に新潟を経て再び松前に下り、石崎店に赤間関で仕入れた三田尻塩や嘉右衛門家の作徳米、桂屋の若糸酒などを売り、ついでに箱館でも酒・酢・米を売り海産物を仕入れて新潟に帰帆した。三番船は8月に松前に着き、石崎店から魚油を購入、ついでに箱館に移り、その後箱館に逗留した。嘉右衛門家文書にはこの2年間における松前・箱館商人たちとの売買証文（仕切状）が102通残っており、また忠左衛門から国元の嘉右衛門に宛てた箱館相場を伝えた書状もいくつが残っている。

三番船の取引全般を嘉右衛門から任されていた忠左衛門は、10月に箱館から三番船の新潟帰帆の準備をしていたが、悪天候で西廻りが危険と判断し、予定を変更して鰯4000本を箱館で購入し、東廻りで江戸に上り、関東辺で売り捌いて200両の儲けをあげてから新潟に帰帆することを決めた。しかし、この目論見は失敗した。江戸では船宿の南部屋得次郎の肝入りで三河屋常蔵を通じて鰯^{さば}を売り捌くことにしたが、時期を逸したか、上州での販売は元値（一両に19本）を下回る一両に25本という安値で捌かれ、しかも販売を受け負った政吉・友吉の2人が売上金を持って欠落するという不測の結果となった。

おわりに

鰯一件以降、嘉右衛門家文書から桂屋関係の文書は姿を消す。諏訪丸を所有する嘉右衛門は、江戸での負債の後始末のため船を江戸で売却し、このあと交易から手を引く。加茂の忠左衛門のその後については不明である。果敢に新しい商売に挑戦していく桂屋の活動は、在郷町の商人としては特異の商人といえるが、加茂町も時代とともに変化し、揺り動かされていったことを桂屋3代の事業を通じて見ることができよう。

館 外 活 動

① 古文書講座

恒例の古文書講座も28回を数えました。
熱心な受講者の皆様に支えられ、益々充実した
内容にしていきたいと思っています。

開催時間 午後7時～8時40分
会 場 加茂市公民館第1研修室

第1回

平成22年8月30日(月)
講師 関 正平 先生
(加茂市文化財調査審議委員)
一般参加者 34名

テーマ

「蒟蒻と上条商人」

講座内容

蒟蒻の仲買商人として茨城県大子
町に土着して店舗を構え、自由営業
をしていた「越後の川口」について
資料を提示し、その読み方、解釈を
行った。



関 正平 先生

第2回

平成22年9月7日(火)
講師 溝口 敏磨
(加茂市文化財調査審議委員長)
一般参加者 40名

テーマ

「明治維新と青海神社」

講座内容

明治2年に出された「賀茂神社格の
永久安堵願い」を中心にして原文を
読解した。

第3回

平成22年9月15日(火)
講師 佐藤 賢次 先生
(加茂市文化財調査審議委員)

一般参加者 33名

テーマ

「小泉蒼軒『三物新志』に見る加茂の
材木」

講座内容

小泉蒼軒の『三物新志』を提示し、
・ 加茂上条で生産する板材は質が
良かったことで遠路にまで売ら
れていたこと。
・ 木材を効率よく運び出す業や植
林の心得
等を読解した。

第4回

平成22年9月21日(火)
講師 長谷川 昭一 先生
(加茂市文化財調査審議副委員長)
一般参加者 29名

講座演目

「関真次郎宛 安田靫彦の手紙」

テーマ

安田靫彦が加茂の経済人であり
日本美術の良き理解者である関
真次郎に宛てた書簡を提示し、二
人の交友や靫彦の字体が次第に
良寛の字体に変わっていく様子
を鑑賞した。



長谷川 昭一 先生

第5回

平成22年9月28日(火)
講師 丸山 朝雄 先生
(加茂市文化財調査審議委員)
一般参加者 30名

テーマ

「永井氏の系図—武家頭領の家譜」

講座内容

順行寺の資料による漢方医永井
家のルーツを遡ると、桓武天皇に始
まる平氏につきあたる。その後のい
きさつを、家系図を基に武家の頭領
であった北条一族と永井氏とのつ
ながりを読解した。

② 歴史講演会

日 時 平成22年11月20日(土)
会 場 加茂市公民館 第1研修室
講 師 関 正平 先生
(加茂市文化財調査審議委員)

テーマ 「上条新町と蒟蒻商人」

一般参加者 48名

講座内容

- ・ 上条新町の町立て
- ・ 上条町の商人と屋号
- ・ 常陸久慈大子町袋田からの蒟蒻出荷数の2割は加茂経由で各地に販売されていた。
- ・ 上条には元結商人も多かった。
- ・ 元結、水引に糊として蒟蒻を使っていた。
- ・ 蒟蒻の取引として常陸久慈大子村とのつながりは深かった。
- ・ 常陸の国で蒟蒻栽培が盛んになったのは、生蒟蒻の乾燥技術が高かったためであった。

③ 特別歴史講演会

日 時 平成23年3月19日(土)
会 場 加茂文化会館小ホール
講 師 山崎完一先生
(加茂市文化財調査審議委員)
清水 徹先生

テーマ 「加茂市の歴史的建造物」

一主として近世初頭から現代に至る
社寺建築のあゆみ

一般参加者 76名

講演内容

- (1) 建造物の歴史的価値の評価基準
- (2) 加茂市の社寺建築

総じて個性豊かな建築が多い

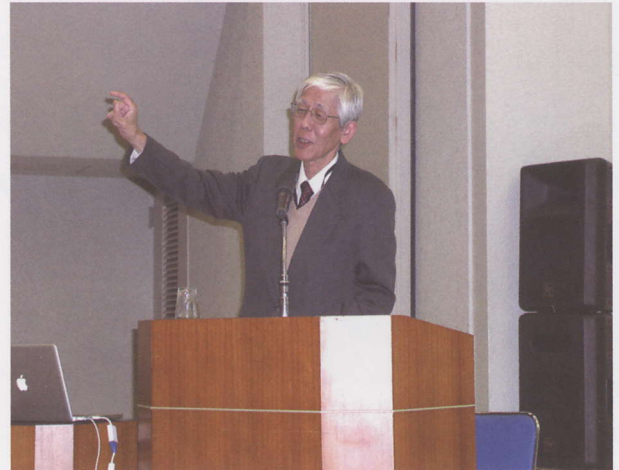
- ・ 加茂で古い建築
青海神社本殿、青海神社貴船社
嶽山寺観音堂
- ・ 造形の規範となる建築
日吉神社(黒水)、日吉神社(下高柳)、
単一の社殿より機能分化した社殿
十二神社(上土倉)、長瀬神社
(宮寄上)、五社宮(長谷)、
塩飴(しおこぼし)神社(早田)
- ・ 特徴のある寺院本堂
廣圓寺本堂、谷泉寺本堂、宝興寺本堂、
西光寺本堂、本量寺本堂、雙壁寺本堂
- ・ 近代の寺院建築
稻荷神社(下条) 菅原神社(北瀬)、
耕泰寺、定光寺
※ 定光寺は加茂を代表する近代の
寺院建築である。明治12年、加
茂の入倉三右衛門が棟梁を務め
再建した。

端整かつ斬新性のある外観と豪華な内
部意匠は、完成度が高い。

(3) 近代洋風建築～民家～

- ・ 加茂農林高等学校
- ・ 加茂市民俗資料館
- ・ 加茂製材
- ・ 七谷地区の民家

七谷地区の民家は、広間型より四間取型
に変遷してきた。明治末から昭和にかけて、
住居もみな同じレベルでないと物のやりと
りができなかったことを反映している。



山崎 完一先生



清水 徹 先生

まとめ

青海神社本殿、青海神社貴船社、嶽山寺観音堂
等の古い社寺建築は、中世そのものの世界を引き
継いでいる。即ち、1600年代の建造物は中世
の名残りを残している。

1700年代の建造物を克明に追っていくと現
代の姿が浮かび上がってくる。1700年代の建
物は中世の流れを脱却してきており、1800年
以降になると建築様式は現代とそう変わりがな
くなっていく。

平成22年度の歩み

1 入館者数

平成22年4月～平成23年3月

	市内	市外	計	団体
大人	174	423	636	2
小中学生	88	60	567	12
計	262	483	1,203	14

2 資料収集の状況

本年度は6名の方から16件21点のご寄贈を賜り御礼申し上げます、紹介させていただきます。

〈寄贈品名〉

花火玉模型(10号・7号・5号)、川船(大型)、櫓、天秤ばかり(大)、味噌釜、味噌樽、味噌つぶし機、ゴロ(丸型)、御神燈、保管箱、手提げ金庫、ブルドン管気圧計

刻印、埴塙、はけ(和紙乾燥用)、木挽き鋸

〈寄贈者ご芳名〉

阿部煙火工業(株)様 田沢 潔 様
金子 欣示 様 高橋 睦子 様
今井 勝 様 福井 敏博 様

3 レファレンス・サービス及びアンケート調査(民俗資料館への問合せ)

①レファレンス・サービス(51件)

- ・ 七欧無線の存在について
- ・ 加茂出身の橋本龍美について
- ・ 良寛と加茂のつながり
- ・ 天神林の歴史について
- ・ 1800年代に東北中心に冷害が発生して、飢饉の被害も大きかったと思われるが、この辺の状況はどうであったか
- ・ 賢聖寺跡について知りたい
- ・ わら製民具の写真が欲しい
- ・ 姫ノ城跡についての資料が欲しい
- ・ 新田一族の墓について
- ・ 七社神社と十二神社それぞれの祭神の場所は 等

②アンケート・調査・依頼(76件)

- ・ 県指定文化財候補の有無について
- ・ 会計実施検査に係る準備及び協力について(依頼)
- ・ 平成22年度博物館実習について(依頼)
- ・ 平成22年度文化財関係国庫補助金の執行状況について(照会)
- ・ 埋蔵文化財担当者専門研修に関するアンケートの実施について(照会)
- ・ 9月11日～13日大雨による国指定等文化財の被害について

- ・ 平成22年度文化財防火運動実施状況調査について
- ・ 下大谷の化石調査のお願い
- ・ 出土品の収集保管に関する調査について 等

4 博物館実習

- ・ 8月16日～8月24日 新潟大学人文学部 学生1名

平成23年度の事業予定

○収蔵庫資料整理・活用事業

○加茂和紙の技術保存・伝承

○加茂市の遺跡に触れる会

○昔の加茂を映像で振り返る会

日時 8月12日(金)
午後2時～午後3時30分
会場 加茂市立図書館(視聴覚室)
内容 青海神社祭典
加茂祭
加茂歴史散歩(七谷編) 他

○古文書講座

第1回 8月 30日(火) 関 先生
第2回 9月 6日(火) 溝口 先生
第3回 9月 13日(火) 佐藤 先生
第4回 9月 20日(火) 丸山 先生
第5回 9月 27日(火) 長谷川先生

○歴史講演会

日時 平成23年11月19日(土)
午後2時～4時
会場 加茂市公民館 第1研修室
講師 長谷川昭一 先生

○特別歴史講演会

期日、講師ともに未定

加茂市民俗資料館

■開館時間 9:00～17:00

■休館日 月曜日、毎月第1,3,5土日曜日

祝日、年末年始

※但し、4,5月は月曜日のみ(祝日に当たるときは次の平日)

〒959-1372 新潟県加茂市大字加茂229番地1

TEL / FAX: 0256-52-0089

E-mail: minzoku@city.kamo.niigata.jp